

国 語【中学校第3学年】

正答の状況

年 度		平成28年度		H27年度	
種 別		国語 A	国語 B	国語 A	国語 B
平均	県	24.4問／33問	5.8問／9問	24.2問／33問	5.8問／9問
正答数	全国	25.0問／33問	6.0問／9問	25.0問／33問	5.9問／9問
平均	県	74%	64%	73.3%	64.1%
正答率	全国	76%	67%	75.8%	65.8%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

○ 成果1〈A問題〉	相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと
○ 成果2〈A問題〉	文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること
○ 成果3〈B問題〉	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること
▲ 課題1〈A問題〉	互いの発言を検討して自分の考えを広げること
▲ 課題2〈A問題〉	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと等
▲ 課題3〈B問題〉	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉えること
▲ 課題4〈B問題〉	目的に応じて文章を要約すること

成果が見られた問題の概要例

○ 成果1〈A問題〉 設問番号 5 一 ○ 成果3〈B問題〉 設問番号 2 三

【設問の概要】
電話を受けた相手のことを考えて、考えた言葉を書く。

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差
5 一	93	93	0

【設問の概要】
本文の内容について疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差
2 三	52	49	+3

- 全国、本県ともに正答率は90%を超えている。職場体験学習や総合的な学習の時間に依頼や確認の電話をするなど、相手や場に応じた言葉遣いが定着してきている。
- B調査において、国語への関心・意欲・態度及び書く能力については、全国を上回った。小学校同様、「書くこと」を位置付けた授業が実践されつつあることがうかがえる。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点，授業づくりのポイント（A問題）

課題が見られた問題の概要（A問題）

▲課題1（A問題）

設問番号 7 二

二 場面②のあと、西さんは、学級全体へ向けた発言をします。発言の内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

1 一緒に演奏することを通して交流が深まるので、和太鼓がよいと思います。

2 演奏している様子を写真撮影することができるので、和太鼓がよいと思います。

3 作ったものを記念として持ち帰ることができるので、折り紙がよいと思います。

4 折り方を教えることを通じて交流が深まるので、折り紙がよいと思います。

候補	長所	短所
和太鼓	・一緒に演奏することを通して交流が深まる。 ・誰にでも音が出せる。	・準備や片付けに手間がかかる。 ・音が大きいので、隣の教室への配慮が必要。
折り紙	・折り方を教えることを通じて交流が深まる。 ・どこでも手軽にできる。	・上手に折るのは難しい。

【黒板にまとめた意見】

7 前田さんの学級では、外国の中学生との交流のときに和太鼓を演奏するか、折り紙を折るかについて話し合っています。次は、【黒板にまとめた意見】をもとに、さらに付け加えたい意見について隣の席の人と話し合っているところです。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（2点）

の中は、面の中で考えていることを表します。

場面①

折り紙の方がよいと思う。既に出されている長所に付け加えて、言葉でうまく説明できなくても動作で折り方を伝えられるというよさを挙げようと思うのだけれど、どうかな。

前田さん 西さん

西さんも私と同じで、折り紙に賛成なんだな。でも、動作で伝えられるというのは和太鼓にも共通していて説得力が足りないな。

場面②

私も折り紙の方がよいと思う。でも、動作でやり方を伝えられるというよさは、和太鼓にも言えるよね。折り紙だけに言えるよさを付け加えたいな。

前田さん 西さん

確かにそのとおりだな。

【設問の概要】
話合いを踏まえた発言として適切なものを選択する。

【平均正答率（％）】			
7 二	本県	全国	差
	5 8	6 2	- 4

＜本県の誤答傾向＞

正答	選 択 肢	類 型（％）
	1 と解答しているもの	6
	2 と解答しているもの	4
◎	3 と解答しているもの	5 8
	4 と解答しているもの	3 3
	上記以外の解答	0
	無解答	1

（類型は小数第1位を四捨五入したため、類型の合計が100にならないこともある）

問題点とその改善点（A問題）

- 前田さんとの会話の中で、互いの発言を検討して考えを広げる問題である。
- 誤答4を選んだ生徒は、場面①、②の流れから「折り紙」がよいことを理解しているものの、直前の前田さんの「折り紙だけに言えるよさ」という部分や黒板の内容を見落としているものである。

【改善点】

- 話合い活動の様子を記録した動画等を用い、話合い活動を振り返り、互いの発言の意図・趣旨について検討するなど、話合いの過程を生徒自身が評価する活動が必要である。
- 音声言語を用いた「話すこと・聞くこと」の学習では、話合い活動を行うことが目的にならないように、考えを広げたり、課題を解決したりするために互いの意見を生かし合うなど、評価の観点を事前に生徒に明示することが大切である。

▲課題 1 (A問題)

設問番号 9 三 ウ, オ

【設問の概要】
慣用句の正しい使い方として適切な語句を選択する。

【平均正答率 (%)】			
	本県	全国	差
9 三	ウ 5 5 オ 5 2	5 9 5 4	-4 -2

設問番号 9 五

【設問の概要】
文の成分の照応について適切なものを選択する。

【平均正答率 (%)】			
	本県	全国	差
9 五	4 4	5 1	-7

問題点とその改善点 (A問題)

〈9二について〉

本県の生徒は、教科書で学習した内容や事柄については一定の理解や定着が図られている。

しかしながら、慣用句等の語彙に関する問題は、昨年度も全国より低い結果であった。内容の理解や思考・表現の内容を広げたり深めたりするために、質を保った読書活動の充実など語彙をを広げる取組を充実することが大事である。

○ ウでは誤答 1「塩をまく」が、オでは誤答 2「矢が刺さる」や誤答 3「矢が飛ぶ」が多かった。

〈9五について〉

文の成分に関する問題五では、「とても」という修飾語が「驚きました」という被修飾語に近づいた文節相互の係り受けについての出題であるが、指示する語と指示される語の関係であると誤って捉えている生徒が 32%であった。

また、修飾・被修飾の関係と主語・述語の関係、並立の関係の区別ができていない生徒もそれぞれ 1割を超えていた。

【改善点】

○ 各教科等の学習や読書活動等をすすめる中で出会った慣用句やことわざを、取り上げ、その意味を考えたり、具体的に活用する場を工夫したりする必要がある。

○ 言語事項の指導については、確実に定着するまで繰り返し学習を進めていく。

9

次の一から七までの各問いに答えなさい。

(課題の見られる問題を抽出して掲載)

三 次のアからオの文では、() の中の 1 から 4 までのうち、どれが最も適切ですか、それぞれ一つ選びなさい。

ウ 弟子を手塩に (1 まいて (2 ひいて (3 かけて (4 育てる。
オ 会長候補として、白羽の矢が (1 立つ (2 刺さる (3 飛ぶ (4 向かう)。

五 次は、世界的に有名な「サクラダ・ファミリア」を紹介する【A】とそれを書き直した文章【B】です。書き直した意図として最も適切なものを、あとの 1 から 4 までの中から一つ選びなさい。

【A】(前略) 私は、とても日本人が建設に大きく貢献していることを知って驚きました。

【B】(前略) 私は、日本人が建設に大きく貢献していることを知ってとても驚きました。

1 主語と述語を近付けて、何がどうしたかを明確にしようとした。

2 並立の関係にある文節を近付けて、対等の関係にあることを明確にしようとした。

3 指示する言葉と指示される言葉を近付けて、何を指しているかを明確にしようとした。

4 修飾・被修飾の関係にある文節を近付けて、何を詳しく説明しているかを明確にしようとした。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点，授業づくりのポイント（B問題）

課題が見られた問題の概要（B問題）

▲課題3（B問題）

設問番号 1 ー

「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが、実は今の暮らしの様々なところに息づいています。

「暮らしの中の伝統文化展」の第1期は、「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

うるしの世界

おわんや重箱などに代表される漆製品は、優美だけでなく、丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており、私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

展示内容（1階展示室）

展示コーナー②
原料としての漆の性質

展示コーナー①
漆製品の歴史

展示コーナー③
漆製品の製造工程

展示コーナー④
暮らしの中の漆製品

関連イベント

～漆製品を使ってみよう～

漆の器とスプーンでアイスクリームを味わいます。また、使用後の手入れの仕方も体験できます。漆の器の美しさや手触りのよさなどを感じてみませんか。

日時：開催期間中の土曜日
午後3時～午後4時
場所：1階特別室
定員：20名（無料・当日受付）

～職人の技を見てみよう～

この道30年の職人による漆塗りの実演を見ることが出来ます。交流する時間もありますので、伝統を受け継ぐ職人としての思いなどを直接聞いてみませんか。

日時：開催期間中の日曜日
午前10時～午前11時
場所：1階ホール
定員：50名（無料・当日受付）

**暮らしの中の
伝統文化展**



第1期
うるしの世界

2016年 5月21日(土) - 6月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日
入館料：一般300円 大学生・高校生200円
中学生以下無料

第2期：「和紙の世界」6月25日(土)～7月24日(日)
第3期：「織物の世界」7月30日(土)～8月28日(日)

草木市立博物館

〒900-9859 草木市南町7
電話 000-123-xxxx
<http://www.hakubutsukan.xx.jp>

【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】を読んで、あとの問いに答えなさい。

- 1 【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるのらとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 2 漆、和紙、織物などの日本の伝統文化は特別なものではなく、現在の生活とつながりがあると知ってもらうこと。
- 3 国内の各地で漆、和紙、織物の順で生まれ、発展してきた日本の伝統文化の歴史的な背景を理解してもらうこと。
- 4 世界の優れた職人の手によって作り出された漆、和紙、織物などの高級品の数々を鑑賞してもらうこと。

【設問の概要】

資料の表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」の開催のねらいとして適切なものを選択する。

〈本県の誤答傾向〉

正答	選択肢	類型(%)
◎	1 と解答しているもの	7 0
	2 と解答しているもの	1 0
	3 と解答しているもの	1 4
	4 と解答しているもの	6
	上記以外の解答	0
	無解答	0

問題点とその改善点（B問題）

文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える問題である。

- 誤答3を選択した生徒については、ちらしの表面にある「第1期」「第2期」「第3期」を成立順と捉えたものである。裏面のリード文を読んで考えれば、誤答が減ずるものと考えられる。

【改善点】

- 文章の構成や展開、表現の仕方とその効果から、書き手の目的や意図を考え、文章の要旨を捉えたり、目的や意図をもって文章を表現の工夫をさせたりする必要がある。

指導例：説明文教材の中で文章の中心的な部分と付加的な部分の読み分けをするとともに、レポート作成の学習などで見出しやリード文等の働きを定着させる。

2 高橋さんは、次の【雑誌の記事】を読んで宇宙エレベーターに興味をもち、調べています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【雑誌の記事】

もう夢物語ではない！ エレベーターで宇宙へ

地上と宇宙を結んで、人や物の行き来を可能にする「宇宙エレベーター」。これまではSF小説やアニメに登場する、空想世界だけの技術と考えられていたが、今や実現可能な技術として期待されている。

ケーブルで地上と宇宙を結ぶ

赤道上の高度約3万6000kmの位置に宇宙ステーションを建設すると、地球の回転と同じ約24時間で一周するため、地上からは静止しているように見える。この宇宙ステーションから、地上へ向けてカーボンナノチューブを素材とするケーブルを伸ばしていくと、ケーブルはやすがて地上に到達し、地上と宇

宙を結ぶ一本の長いひもになる。このケーブルに、モーターで動く昇降機を取り付けて人や物資を運ぶようにするのが宇宙エレベーターである。

ただし、地上側にはケーブルを伸ばすと、その分、地球に引く張られる力が強くなり、宇宙ステーションは地球に落ちてきてしまう。そのため、宇宙ステーションから地上とは反対側へもケーブルを伸ばしてバランスを保つ必要がある。

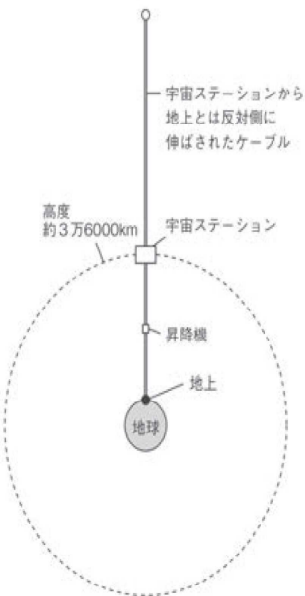
新たな物質の発見

宇宙エレベーターが空想世界だけの技術と考えられていた理由の一つは、ケーブルを作ることでできる素材がないことだった。しかし、1991年にカーボンナノチューブという物質が発見された。カーボンナノチューブは炭素でできた物質であり、非常に強く強いという特性をもっている。この発見により宇宙エレベーター実現の可能性が高まった。現在は、鉄の100倍の強度にすることを目標として研究が進められている。

イラスト

▲カーボンナノチューブの構造

宇宙エレベーターのイメージ



大量輸送もOK

これまでは、宇宙へ行くための方法として、スペースシャトルやソユーズなどのロケットを利用してきた。しかし、これらのロケットには大量の燃料などを積み込むため、荷物を多く積むことができなかった。それに代わって、電力で動く宇宙エレベーターを使えば、昇降機で大量の荷物やたくさんの人を宇宙に運ぶことが可能になる。

写真

写真

▲スペースシャトル(左)とソユーズ(右)

ロケットよりも安い費用

ロケットは、打ち上げに多くの費用がかかることに加え、一度使った機体の再利用も課題となっている。一方、宇宙エレベーターは外から供給される電力で動かすことが想定されており、また、長い期間にわたって繰り返し使うことが可能なので、安い費用で宇宙に行くことができると思われる。

写真

▲宇宙から見た地球

誰でも宇宙へ

現在、宇宙飛行士になるためには、健康面や科学的な知識、語学力などに関する様々な資質が求められている。しかし、宇宙エレベーターは安全性が確保されれば、地上のエレベーターと同じように乗ることができると考えられている。宇宙エレベーターを使えば、誰でも宇宙に行くことができるようになるかもしれない。

宇宙エレベーターの建設方法

◎宇宙エレベーターはどのようにして建設するのか。

- ・ 高度約3万6000kmの宇宙ステーションから、地上へ向けてケーブルを伸ばす。地上とは反対側へもケーブルを伸ばす。
- ・ ケーブルに昇降機を取り付ける。

〈出典〉『科学と未来』平成28年5月号（日本科学未来社）

宇宙エレベーターの昇降機

◎宇宙エレベーターの昇降機にはどのような特徴があるのか。

〈出典〉『科学と未来』平成28年5月号（日本科学未来社）

- 1 地上と宇宙ステーションの間を約24時間で移動する。
- 2 大量の荷物やたくさんの人を運ぶことができる。
- 3 昇降機の壁はロケットの100倍の強度をもっている。
- 4 外から供給される電力でモーターを動かして昇降する。
- 5 地球と同じ速さで動き、どこからでも乗ることができる。

二 高橋さんは、『雑誌の記事』の内容を次のような情報カードにまとめています。
次の1から5までの中から二つ選びなさい。

【設問の概要】

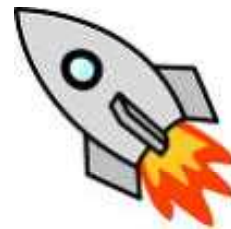
資料を情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する。

平均正答率（％）			
2	二	本県	全国
		59	64
			差
			-5

問題点とその改善点（B問題）

〈本県の誤答傾向〉

正答	選 択 肢	類 型 （％）
◎	2, 4 と解答しているもの	59
	上記以外の解答	41
	無解答	0



宇宙エレベーターの昇降機について、本文の内容を要約して正しいものを選択する問題である。説明的文章における要約や要旨をまとめる問題については、小・中学校を通じて最も大きな課題となっている。

- 誤答傾向について、全国的な傾向から見ると、選択肢「2」を選んだが、「4」を選ばなかった生徒が全体の2割を超えている。雑誌の記事中の「ケーブルで地上と宇宙を結ぶ」の「モーターで動く昇降機」の内容と「大量輸送もOK」の「電力で動く宇宙エレベーター」、「ロケットよりも安い費用」の「宇宙エレベーターは外から供給される電力で動かすこと」をむすびつけられなかったことによる誤答である。「2」については「大量輸送もOK」という見出しにもあるため、比較的、把握し易かったものである。

【改善点】

- 文章の一部分を詳しく読むことばかりでなく、短い時間で文章全体の内容を大まかにつかむことが必要である。また、全体を一度に要約できない場合、いくつかのまとまり（意味段落）にまとめて読む読み方を指導する。
- 「宇宙エレベーター」というキーワードを基に関係する部分を見つけ出し、内容をまとめる問題のように、文章全体の中から必要な情報を正確に読み取ることができるようにする。

コラム② 「内容を教える」それとも「形式を教える」？



教材研究の際、何を学習課題に据えようか迷ったことはありませんか。教材の内容にばかり重きが置かれると、他の文章へ活用する力が身に付かないし、読み方や書き方ばかりでは単調な授業になりそうで・・・。

そのようなときには、指導するその教材だけで考えるのではなく、国語科の3年間全体の指導計画の中で、本教材がどのような位置付けにあるのか考えてみてください。

指導すべき内容（学習のねらい）が見え、生徒自身が目的をもって読むことができるような課題が設定しやすくなります。